

## 第4章 重点施策と目標値

### 1 重点施策

食育の基本理念や基本目標を達成するため、重点施策については3つの項目を掲げ、具体的な取り組みを行います。食育の実践にあたっては、市民（個人・家庭）が主役となり様々な関係機関・団体が連携を図りながら、健康寿命の延伸を目指します。

#### 【重点施策1】 生きる力を育てる食育

- (1) 望ましい食習慣の形成を促進
- (2) 楽しく食べる環境づくり

#### 【重点施策2】 「食」をとおした健康づくりの推進

- (3) 健全な食生活の実践を促進
- (4) 食の安全・安心の推進

#### 【重点施策3】 くりはらの食を地域ぐるみで伝承

- (5) 食文化を次世代へ伝える
- (6) 地場産品の活用促進
- (7) 食育推進の環境づくり

「食育ピクトグラム」（農林水産省）（注<sup>11</sup>）について

食育ピクトグラムは農林水産省で作成した食育に関する取り組みを誰にでも分かりやすくイラストで表現したピクトグラムです。食育について多くの人へ情報発信や普及啓発を行うことを目的として作成されました。第4期計画では具体的な食育の取り組みをわかりやすく表現するため「食育ピクトグラム」を活用しています。



## 【重点施策1】 生きる力を育てる食育

市民一人ひとりが生涯にわたり心身ともに健康な生活を送れるよう、幼少期から健康づくりに必要な知識を習得し、実践できるよう食育を推進します。

## (1) 望ましい食習慣の形成を促進



## ①朝食摂食の推進

- ・「はやね・はやおき・あさごはん」推奨運動（注<sup>12</sup>）をとおり、子どもや保護者等の世代に対し規則正しい生活リズムと食習慣の大切さを伝えます。
- ・朝食を食べることの大切さを理解し、習慣化できるように支援します。

## ②子どもの適正体重維持の推進

- ・保護者に対し、子どもの成長に合った望ましい食事と間食の摂り方について啓発します。
- ・子どもは自分の適正体重を知り、保護者は子どもに合った適切な食事に配慮します。
- ・子どもに対し望ましい生活習慣や間食の摂り方を啓発します。
- ・食事バランスガイド（注<sup>13</sup>）などを活用し、「何を」、「どれぐらい」食べたらいいかについて学べる機会をつくれます。

## ③「食」に関する正しい知識の習得

- ・「食」への関心を高め、正しい知識を適切に得られるように啓発を行います。
- ・乳幼児から高齢者まで、ライフステージに合わせた適切な食事量や組み合わせ等、正しい食べ方について啓発を行います。
- ・三色食品群の赤（主菜）、緑（副菜）、黄（主食）（注<sup>14</sup>）を組み合わせた食事を食べることが望ましい生活習慣につながるよう支援します。
- ・保護者へも食育通信や献立だより等をとおりして三色食品群について啓発を行い、親子で食に関する理解が深まるように支援します。

## ④「食」の自立に向けた技術の向上

- ・保護者や地域の関係機関、団体等と連携し、子どもが農作物栽培や調理実習等の食体験をとおり健全な食生活の基盤として適切な食を選択する知識や、調理の技術について学べる機会をつくれます。
- ・子どもは家庭においても積極的に食事作りのお手伝い等をするこことで、食の自立に向けた調理技術を習得することを普及します。



○「赤・緑・黄の食べ物について」の学習  
瀬峰幼稚園食育指導



○「瀬峰幼稚園の給食」

(2) 楽しく食べる環境づくり



- ①新しい生活様式の中で家族や仲間と工夫して一緒に食卓を囲む「共食」(注<sup>15</sup>)の推進
- ・楽しい雰囲気の中で、コミュニケーションを図り、家族や仲間と一緒に食事をすることを推進します。
  - ・食のイベントや研修会等において、食事づくり・調理体験や共食等、仲間と一緒に食事をする機会を設けます。
  - ・家族一人ひとりが積極的に食事の準備や調理に関わることを推進します。
  - ・家庭で共食が難しい子どもたちには、食の機会を提供します。

②食品ロス(注<sup>16</sup>)削減の推進

- ・栽培から生産、加工、流通そして消費までを理解することで、食べ物への感謝の気持ちを育み、無駄に食べ物を廃棄することを防ぎ、食品ロスを削減することへつなげます。
- ・家にある食材をチェックしてメモを活用し、使い切れる分だけ買うことを推進します。
- ・食品ロス削減のために、賞味期限(注<sup>17</sup>)や消費期限(注<sup>18</sup>)をこまめに確認することと、調理する時は食べ切れる量だけ作ることを推進します。
- ・食品等をフードドライブ(注<sup>19</sup>)へ提供することで食品ロス削減につながることを普及します。

③正しい食事のマナーを啓発

- ・家庭において、食前食後のあいさつや正しい箸の持ち方等のマナーを身につけることを普及します。
- ・給食や料理教室などをとおり、食前食後の挨拶、正しい箸の持ち方などを啓発します。
- ・正しい手洗いの方法を身につけ、食事の前に行う習慣を普及します。



○「手洗い指導」栗駒幼稚園



○「給食の約束」宮野小学校



○「栗原市食育セミナー」若柳小学校

## 【重点施策2】 「食」をとおした健康づくりの推進

市民一人ひとりが生涯にわたり健康の保持・増進、生活習慣病の予防につながる健全な食生活を送るために必要な知識を習得し、自ら実践できるよう食育を推進します。

## (3) 健全な食生活の実践を促進



## ① バランスの良い食事の定着を促進

- ・お膳のかたち(注<sup>20</sup>)は、「主食・主菜・副菜」がそろった栄養バランスの良い食べ方であることを普及します。
- ・1日3回「主食・主菜・副菜」をそろえた栄養バランスの良い食事をとることを普及します。
- ・中食(注<sup>21</sup>)や外食等を利用する際にも、バランスよく組み合わせて食べるための知識を提供します。
- ・食事バランスガイドなどを活用し、栄養バランスの良い食べ方や間食の摂り方について学べる機会をつくれます。
- ・1日に必要な野菜の量は350g以上であることを普及するとともに、1日3回の食事で野菜を食べることを推進します。
- ・高血圧等生活習慣病予防に減塩が有効であることを普及するとともに、減塩調味料及び減塩食品の利用を推奨します。
- ・だしの活用で適塩の食事となることを普及します。
- ・1日の塩分摂取目標量(注<sup>22</sup>)は男性7.5g未満、女性6.5g未満であることを普及します。(日本人の食事摂取基準等の改訂に伴い、目標量等が変更された場合は、変更後の目標値等で推進します。)

## ② 成人の適正体重維持の推進

- ・自分の適正体重やBMI(注<sup>23</sup>)を知り、自分に合った適切な内容と量の食事を摂ることを普及します。
- ・肥満や過度の痩身が健康に及ぼす影響について啓発し、適正体重を維持することの重要性を伝えます。

③ フレイル(注<sup>24</sup>)予防の推進

- ・高齢者の健康寿命を延伸するために重要なフレイルの概念について普及啓発します。
- ・フレイル予防に欠かせない食事・栄養の摂り方や工夫の仕方を普及啓発します。



○「地区健康教室でのみそ汁の塩分濃度測定」

食生活改善推進員協議会



④ ゆっくりよく噛んで食べることの普及

- ・ ゆっくりよく噛んで食事をする事は、料理を味わうとともに、食べ物の消化吸収が良くなること、むし歯や歯周病の予防にもつながります。また満腹感が得られやすく肥満予防等、様々な効果があることを普及啓発します。
- ・ 口腔機能が十分に発達し維持されるよう、よく噛んで食べるよう普及啓発します。
- ・ 歯と口腔の健康づくりに関する意識を高めるため、全世代に正しいブラッシングの仕方や歯周病予防等の知識について普及します。

(4) 食の安全・安心の推進



① 食の衛生管理（安全・安心）の推進

- ・ 食中毒予防や衛生管理について適切な情報を提供し、正しく衛生管理ができるよう支援します。
- ・ 感染症及び食中毒予防における手洗いの重要性を伝え、食事前の手洗いの定着を促します。
- ・ 災害時の家庭における備えの啓発や、災害時の食支援について関係機関と情報共有し連携を図ります。

② 食品表示法（注<sup>25</sup>）に関する正しい知識の普及

- ・ 食品の安全・安心について正しく理解し、基本的な知識をもとに自ら判断できるよう、食品の安全・安心に関する情報を収集し、提供を行います。
- ・ 栄養成分表示（注<sup>26</sup>）を活用し、自分に合った食品を選び、健康づくりにつながるよう情報の啓発を行います。



○「非常食体験」鶯沢幼稚園・保育所



○「手洗い体験」栗駒小学校

## 【重点施策3】 くりはらの食を地域ぐるみで伝承

市民一人ひとりが地域の伝統料理（郷土料理、行事食、地元食）や地元食材など、栗原市の食文化に関する関心を高め、食文化の継承や地元食材の活用を推進します。

## (5) 食文化を次世代へ伝える



## ①くりはらの食の伝承

- ・餅料理等の地域に根付いた「郷土料理」を伝承します。
- ・お正月やお盆等の「行事食」を伝承します。
- ・季節の食材を使った煮物等、普段の暮らしの中で家庭や地域に受け継がれている「地元食」を伝承します。
- ・栗原市に伝わる食文化を伝承します。

## ②食体験をととした感謝の心の育成

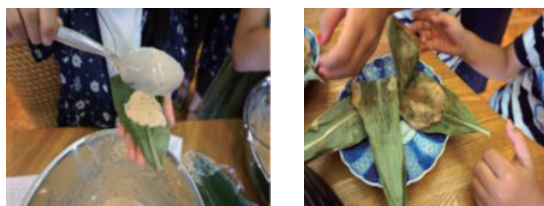
- ・イベントやPTA行事等で郷土料理を味わう機会や食文化に触れる機会を増やし、子どもたちが栗原市の農産物に興味・関心を持てるよう推進します。
- ・栽培体験等、生産者とのふれあいをとおして、食材が食卓に並ぶまでには多くの人々の様々な活動に支えられていることへの感謝や理解が深まるよう支援します。

## ③世代間交流をととして昔ながらの知恵を学ぶ

- ・栗原市は山菜や野菜等の宝庫です。その調理方法や保存方法など、先人より受け継がれてきた食文化を学ぶ取り組みを推進します。
- ・凍み大根や干し柿のように、旬の食材を余すことなく食べるために、丁寧に下ごしらえしたり、時間をかけて作る知恵や知識等を世代間交流をととして学ぶ取り組みを推進します。

④日本型食生活（和食）<sup>(注27)</sup>を伝える

- ・栗原市の農産物である米を中心に、地元産野菜等を活用した日本型食生活（主食・主菜・副菜を組み合わせたお膳のかたち）の献立を普及します。
- ・給食等において「和食の日」を設ける取り組みを行い、子どもや保護者にだしを使った和食の良さを普及します。
- ・食育、栄養教室等をととして、だしの活用で適塩の食事となる和食の魅力について伝える取り組みを推進します。



○「みょうがの葉焼き」くりはらツーリズムネットワーク

## (6) 地場産品の活用促進



### ① 地元で取れる食材の普及啓発

- ・栗原市は米をはじめ、豊かな食材に恵まれています。これらの恵まれた食材の情報を提供する取り組みを支援します。
- ・地産地消（注<sup>28</sup>）について学び、地元食材への理解を深め活用することを推進します。
- ・農産物直売所において、消費者に対し、生産者及び食材の紹介、食材の活用方法の提案等を行うことで栗原産食材の購入を促します。

### ② 栗原市の食材を家庭や給食施設等で積極的に活用

- ・地元食材を家庭や給食施設等で積極的に活用し、地域の活性化につなげられるよう、地元食材の活用促進を推進します。
- ・生産者や食品関連事業者等と連携し、給食施設などに安全・安心な地元食材を提供します。

### ③ 6次産業化（注<sup>29</sup>）による農林水産物の利用促進

- ・栗原市の豊かな食材を活用した6次産業化への取り組みを支援します。
- ・地域資源を活用した6次産業化による新たな産業の創出を推進します。

## (7) 食育推進の環境づくり



### ① 市民が主役の食育を推進

- ・食育の基本は市民（個人・家庭）が主役となります。地域、関係機関・団体、教育機関、行政等それぞれが主体的に活動し、連携・協力して効果的に食育を推進していけるようその取り組みを支援します。
- ・食育の推進に関わるボランティア活動をしている食生活改善推進員の養成並びに育成と活動の支援を行うとともに、人材や取り組みに関する情報を広く発信します。

### ② 食に関する情報の共有

- ・各種団体からなる栗原市食育推進委員会等において、それぞれの団体の活動や人材を共有し、協働による食育活動を実践します。
- ・農業体験や食文化を学ぶ取り組みなど、各関係機関で行っている食育の取り組みやイベント等の情報について共有し、相互に連携しながら活動を推進します。

### ③ 情報発信

- ・「食育月間と食育の日」（注<sup>30</sup>）に合わせ、ウェブサイト等を活用し、食育に関する情報や、それぞれの団体の食育活動等を市民へ普及啓発し、食育に対する意識の醸成を図ります。

## 2 食育推進の目標値

※新たな指標や目標を設定、または見直した項目は表中に色付けしています。

これまでの取り組みの成果や食をめぐる状況等を踏まえ、第4期計画の基本目標・基本方針の取り組み評価指標として次のとおり目標値を設定します。

### 【重点施策1】 生きる力を育てる食育

#### ①毎日朝食を食べる人の割合を増やします。

指 標	対 象	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
毎日朝食を食べる人の割合が増える	中学2年生	78.7%	90%以上
	高校3年生	68.9%	90%以上

◆令和3年度食に関するアンケート

#### ②肥満者（児）の割合を減らします。

指 標	対 象	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
肥満者（児）の割合が減る	5歳児	7.7%	5%以下
	小学5年生	19.1%	19%以下
	中学2年生	15.7%	13%以下
	高校3年生	16.2%	12%以下
	30代以上男性	37.2%	25%以下
	40代以上女性	28.4%	25%以下

◆5歳児は令和3年度幼稚園身体計測結果（保育所児は除く）

小学5年生・中学2年生は令和2年度身体計測結果

高校3年生は令和3年度身体計測結果

30代40代は令和3年度特定健康診査結果

栗原市は肥満傾向児、肥満者の割合が宮城県、全国と比較して高いことから、第3期計画を継続し、肥満者（児）を減らすことを目指す指標とします。30代以上男性、40代以上女性については健康増進計画である第4期からは市民21健康プランに同様の指標があることから、今後も連動して取り組んでいきます。

#### ③食前・食後のあいさつをする人の割合を増やします。

指 標	対 象	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
食前・食後のあいさつをする人の割合が増える	中学2年生	89.9%	100%
	高校3年生	83.9%	100%
	成人	67.9%	100%

◆令和3年度食に関するアンケート



④箸を正しく持てる割合を増やします。

指 標	対 象	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
箸を正しく持てる割合が増える	5歳児	54.7%	70%以上
	小学1年生	63.9%	90%以上

◆令和3年度食に関するアンケート

⑤食品ロス削減のため何らかの行動をしている市民を増やします。（新規）

指 標	対 象	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
食品ロス削減のため何らかの行動をしている市民の割合が増える	成 人	-	80%

◆新規指標のため、今後食に関するアンケートで現状把握

食品ロスは、年間 522 万トン（事業系 275 万トン、家庭系 247 万トン（※環境省「我が国の食品ロスの発生量の推計値」（令和2年度の公表について））となっており、食品ロス削減は国際的にも重要な課題です。市民一人ひとりが食品ロスの現状やその削減の必要性について認識を深め、自ら主体的に取り組むことを目指す指標とします。目標値は国の第4次食育推進基本計画の目標値に合わせて設定しました。

⑥食事の前に手洗いをする人の割合を増やします。

指 標	対 象	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
食事の前に手洗いをする人の割合が増える	5歳児	64.4%	100%

◆令和3年度食に関するアンケート

⑦三色食品群の赤（主菜）・緑（副菜）・黄（主食）の食品がわかる人を増やします。

指 標	対 象	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
三色食品群の赤（主菜）・緑（副菜）・黄（主食）の食品がわかる	小学1年生	23.8%	25%
	小学5年生	56.2%	60%

◆令和3年度食に関するアンケート

小学1年生に関しては、家庭と幼稚園での指導が大きく影響していると考えられるため、保護者を含めた指導をより強化します。



○「主食・主菜・副菜をそろえて食べよう」の学習

食生活改善推進員協議会（花山小学校親子料理教室より）

【重点施策2】 「食」をととした健康づくりの推進

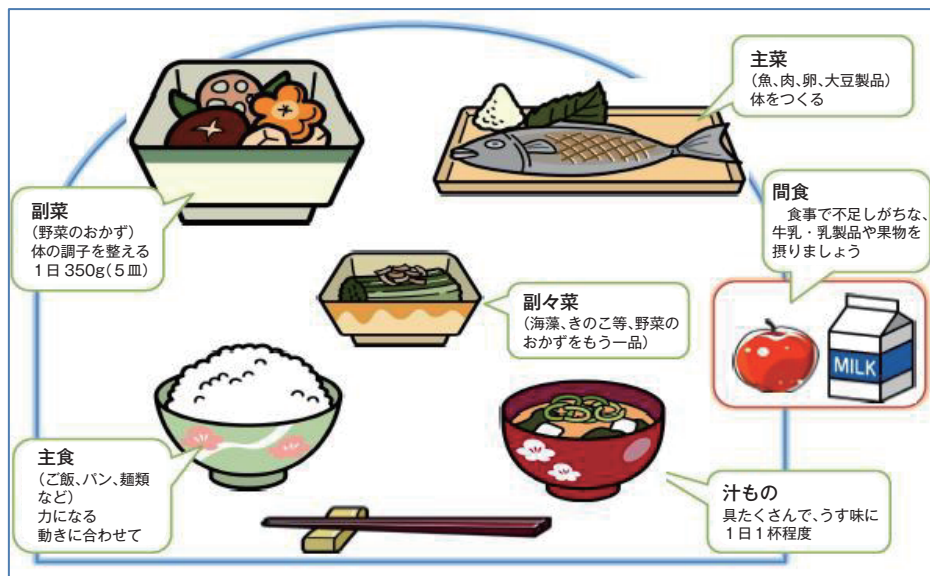
⑧主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合を増やします。

指 標	対 象	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合が増える	中学2年生	61.8%	70%
	高校3年生	57.6%	70%
	成 人	58.6%	65%

◆令和3年度食に関するアンケート

健全な食生活を実践するために、「主食」「主菜」「副菜」をそろえて食べる必要性を理解し、実践する市民の増加を目指す指標とします。県の目標値や食に関するアンケートから把握した現状値を踏まえ、目標値を中学2年生と高校3年生は70%、成人は65%を継続します。

【主食・主菜・副菜を組み合わせた食事（お膳のかたち）】



⑨1日3回野菜（漬物を除く）を食べる人の割合を増やします。（見直し）

指 標	対 象	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
1日3回野菜（漬物を除く）を食べる人の割合が増える	成 人	54.2%	60%以上

◆令和3年度食に関するアンケート

野菜を適量摂取することは生活習慣病の予防に効果的なことから、1日当たりの野菜摂取量を増やすため、1日3回野菜料理（漬物を除く）を食べる人を増やすことを目指す指標とします。現状値が、第3期計画目標値50%以上を達成しているため、目標値を60%以上に設定します。

## ⑩ ゆっくりよく噛んで食事をする人の割合を増やします。(見直し)

指 標	対 象	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
ゆっくりよく噛んで食事をする人の割合が増える	成 人	61.9%	65%

◆令和3年度食に関するアンケート

ゆっくりよく噛んで食事をすることは、料理を味わうことはもちろん、消化・吸収を助け、むし歯予防や肥満予防につながります。国、県の目標値や市の食に関するアンケートから把握した経年の現状値を踏まえ、目標値を65%に設定します。

## ⑪ 栄養成分表示を参考にしている人の割合を増やします。(見直し)

指 標	対 象	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
栄養成分表示を参考にしている人の割合が増える	成 人	46.2% (食品表示を気にしている人の割合)	60%

◆令和3年度食に関するアンケート

栄養成分表示に記載されている5つの栄養素は、生命の維持に不可欠であるとともに、日本人の主要な生活習慣病と深く関わっており、健康づくりに役立つ重要な情報となります。そこで、第4期宮城県食育推進プランの指標に合わせて、「食品表示を気にする人の割合」から「栄養成分表示を参考にしている人の割合」へ変更し指標とします。

## ⑫ 減塩調味料や減塩食品を知っている人の割合を増やします。(新規)

指 標	対 象	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
減塩調味料や減塩食品を知っている人の割合が増える	成 人	-	30%以上

◆新規指標のため、今後食に関するアンケートで現状把握

減塩は、高血圧等の生活習慣病予防に効果的なことから日頃から、減塩調味料や減塩食品を知り食生活に取り入れる人を増やすため、減塩調味料や減塩食品を知っている人の割合を増やすことを目指す指標とします。令和3年度食に関するアンケートで「1日の塩分摂取目標量を知っていますか」の設問で、「知っている」と回答した割合が30.9%だったことを踏まえ目標値を30%以上に設定します。

【重点施策3】 くりはらの食を地域ぐるみで伝承

⑬学校給食での地場産品利用割合を増やします。

指 標	対 象	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
学校給食での地場産品利用割合が増える	学校給食	25.1%	35%以上

◆令和3年度学校給食地場産物活用状況調査（市町村個票）

⑭主に地元産を食べている人の割合を増やします。（見直し）

指 標	対 象	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
主に地元産を食べている人の割合が増える	成 人	42.7% （地元産を買っている 割合）	50%

◆令和3年度食に関するアンケート

第3期計画では、地元産を目安に買う人の割合が増えることを目指す指標としておりましたが、栗原市では自家栽培を行っている家庭もある状況を踏まえて、地元産を食べている人の割合を増やすことを目指す指標に変更します。

⑮「くりはらの食」を知っている人の割合を増やします。

指 標	対 象	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
「くりはらの食」を知っている人の割合が増える	中学2年生	59.9%	100%
	成 人	52.7%	100%

◆令和3年度食に関するアンケート

⑯家庭でくりはらの食や郷土料理を月1回以上食べている人の割合を増やします  
（新規）

指 標	対 象	現状値（令和3年度）	目標値（令和9年度）
家庭でくりはらの食や郷土料理を月1回以上食べている人の割合が増える	成 人	—	50%以上

郷土料理は地域の食材を活用し、風土にあった食べ物としてその歴史や文化、食生活とともに受け継がれています。栗原の地域に根付いた多様な食文化を次世代に継承するため、新たな指標として設定します。

目標値は第4次食育推進基本計画の目標値に合わせて設定します。



⑰食生活改善推進員の地区充足率を上げます。(見直し)

指 標	対 象	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
食生活改善推進員の充足率が上がる	世帯数	81.4%	85%以上

◆令和4年度会員名簿及び世帯数(令和4年4月)

食育の推進に関わるボランティア活動をしている食生活改善推進員が増えることを目指す指標として、一般財団法人日本食生活協会では、各県で70世帯に1人の割合で食生活改善推進員を養成することを目標としているため、合わせて対象を「行政区」から「世帯」に変更します。

⑱食に関する活動を、PTAや地域住民の協力のもと行う割合を増やします。(見直し)

指 標	対 象	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
食に関する活動を、PTAや地域住民の協力のもと行う割合が増える	保育所	8.3%	60%以上
	幼稚園	81.3%	90%以上
	小学校	33.3%	80%以上

◆令和3年度食に関するアンケート

⑲各種団体のネットワークを活用した食育活動を増やします。(新規)

指 標	対 象	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
各種団体のネットワークを活用した食育活動を増やす	栗原市食育推進委員会 委員・庁内食育担当者	224回	230回

◆栗原市食育推進委員会・庁内食育担当者実績報告

食育を推進するにあたっては食育に係る多様な関係団体の取り組みや連携・協働が必要となります。

⑱は第3期計画では「PTA活動」「地域の協力」とそれぞれの指標としていたものを、食に関する活動をPTAや地域住民の協力のもと行う割合が増えることを目指した指標とします。また⑲は、新たな指標として設定します。



【地場産食材】

(栗原産)卵、きゅうり、こんにやく、木綿豆腐、ごはん(ひとめぼれ)

(宮城県産)牛乳、豚肉、カットわかめ、白菜

主菜:厚焼き卵のそぼろあんかけ 副菜:わかめの和え物 汁物:豚汁

【地場産食材】

(栗原産)ズッキーニ、パプリカ、枝豆、なめこ、卵、ねぎ、ごはん(ひとめぼれ)

(宮城県産)牛乳、豚肉

主菜:栗原市産野菜入りキーマカレー 副菜:まめまめサラダ

汁物:栗原市産なめこ卵のスープ デザート:梨

○「地場生産食材使用献立週間より」南部・北部給食センター

## 3 第4期計画目標値一覧

重点施策	指 標	対 象	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
1 生きる力を育てる食育	①毎日朝食を食べる人の割合が増える	中学2年生	78.7%	90%以上
		高校3年生	68.9%	90%以上
	②肥満者(児)の割合が減る	5歳児	7.7%	5%以下
		小学5年生	19.1%	19%以下
		中学2年生	15.7%	13%以下
		高校3年生	16.2%	12%以下
		30代以上男性	37.2%	25%以下
		40代以上女性	28.4%	25%以下
	③食前・食後のあいさつをする人の割合が増える	中学2年生	89.9%	100%
		高校3年生	83.9%	100%
		成人	67.9%	100%
	④箸を正しく持てる人の割合が増える	5歳児	54.7%	70%以上
		小学1年生	63.9%	90%以上
	⑤食品ロス削減のため何らかの行動をしている市民の割合が増える	成人	-	80%
⑥食事の前に手洗いをする人の割合が増える	5歳児	64.4%	100%	
⑦三色食品群の赤(主菜)・緑(副菜)・黄(主食)の食品がわかる	小学1年生	23.8%	25%	
	小学5年生	56.2%	60%	
2 健康づくりの推進 「食」をととした	⑧主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合が増える	中学2年生	61.8%	70%
		高校3年生	57.6%	70%
		成人	58.6%	65%
	⑨1日3回野菜(漬物を除く)を食べる人の割合が増える	成人	54.2%	60%以上
	⑩ゆっくりよく噛んで食事をする人の割合が増える	成人	61.9%	65%
	⑪栄養成分表示を参考にして いる人の割合が増える	成人	46.2% (食品表示を気にしている人の割合)	60%
⑫減塩調味料や減塩食品を知っている人の割合が増える	成人	-	30%以上	

重点施策	指 標	対 象	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
3 くりはらの食を地域ぐるみで伝承	⑬学校給食での地場産品利用割合が増える	学校給食	25.1%	35%以上
	⑭主に地元産を食べている人の割合が増える	成 人	42.7% (地元産を買っている割合)	50%
	⑮くりはらの食を知っている人の割合が増える	中学2年生	59.9%	100%
		成 人	52.7%	100%
	⑯家庭でくりはらの食や郷土料理を月1回以上食べている人の割合が増える	成 人	-	50%以上
	⑰食生活改善推進員の地区充足率が上がる	世帯数	81.4%	85%
	⑱食に関する活動を、PTAや地域住民の協力のもと行う割合が増える	市内保育所	8.3%	60%以上
		市内幼稚園	81.3%	90%以上
市内小学校		33.3%	80%以上	
⑲各種団体のネットワークを活用した食育活動が増える	各関係機関との連携実施回数	224回	230回	

※現状値（令和3年度）は、令和3年度に把握できる数値とした

※目標値等の見直し及び変更が必要になった場合は「栗原市食育推進委員会」において決定する



○ 「食の自立に向けた望ましい食生活と郷土料理について」食生活改善推進員協議会食育事業（迫桜高校はくおうキッチンより）